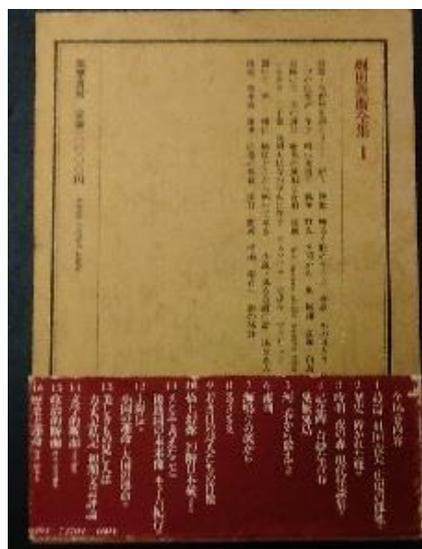
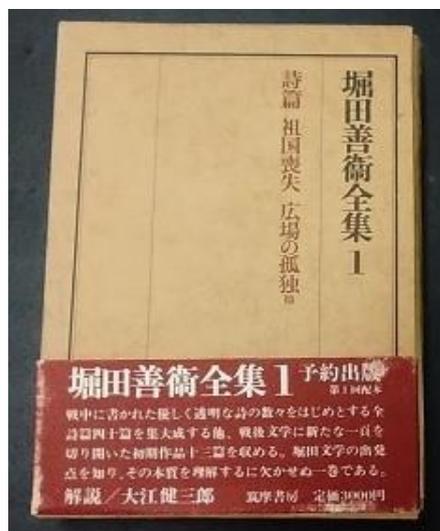


(再掲) 2019年4月1日 (月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」  
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集 (筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年8月3日 (月) 晴れ

近畿も先週金曜、なんとか7月中に梅雨明けした。大阪は土日よく晴れた。すでに8月に入っているせいか、空の感じは夏の終わりのように見えた。今週金曜は立秋。

— 予防線をはる —

今朝の新聞に、『ワクチン争奪 世界が巨費』。人間社会のいつもの構図でもあり、呆れと諦めのいりまじった感想、“やはりそうなるか…”。

昨日の夕刊だったか、持病のない若い人の感染でも、回復後に2割は、「倦怠感」や「間接の痛み」などの後遺症を感じているそう。

やはりウィルスというのは厄介。完全な回復に時間がかかるようだと思って、予防の意識レベルがあがった。「倦怠感」が続くなんて、御免。

このところの感染数増加の推移が気になる。日本の場合は、今はまだ一波流れの中にあるのではないか。

「宣言」が解除された6月の段階では、「宣言」中のことがもう遠く感じられたが、いやいや、そうじゃない。これからまた何があるか…。

ともあれ、超朝型は当面維持し、人の少ない間に移動して、人の少ないところで行動するよう努めよう。超朝型を解くにはいつになる？

2020年8月6日（木）

a la main オープン4周年記念コンサート



アートなレンタルサロン a la main 4周年の催しは「ハンドパン」の演奏会、初めて知った楽器です。昔のものかと思いきや、生まれたのは20年前だそう。「ひと言ひとり言」でも話しましたが、自然の風景が見えてくるような音色。「3密」をさけて、聴き手は8名限定。なんとも贅沢な夏のひと時でした。

\*ひと言ひとり言

<http://www.leeslee.com/00LYKvoice20200807.MP3>

2020年8月11日（火） 晴れ

朝から強い陽射し。今年は梅雨明けがおそく、暑さも昨年ほどではなかったのに、先週末からのこの厳しい残暑は堪える。

— 『今を正確にやる、正直にやる』 —

NHKFMから石川セリの歌声。「武満徹」のポップス曲集からの選曲。7月ではなく、残暑のこの8月の今にピッタリな声、雰囲気。8月はなんとなく郷愁ただよう月。

「武満徹」といえば、あの本がある・・・と、棚の奥から出してみる。ずいぶん前に読んだ、『カメラの前のモノローグ 埴谷雄高・猪熊弦一郎・武満徹』（マリオ・A 集英社新書）。

いくつか付箋がしてある。「武満徹」の章には、次の箇所。

「これからじゃないんだ、本当のことを言えば。今、今なんだ。今僕が何をやるか。今を正確に・・・だめでも今を正確にやる。正直にやるってことですよ」。

この本は2000年5月に出ている。まもない頃に買って読んだ。時々以前読んだ本をとり出してみるが、『本が人生を教えてくれた』というキャッチコピーが頭に浮かぶ。本当にたくさんのことを教えてもらった。

2020年8月17日（月） 晴れ

今日も晴れ、とにかく暑い。昨日と同じぐらい高温の予報。昨日は身の危険を感じたほど。午後からクーラーをつけた部屋に退避していた。体を守ることが第一。

ー 守りたいものがあるから ー

暑さから体を守るのも大事だし、自分の守りたいものを守り通すことも大事。個別の相談や創業塾などのセミナーでみなさんによく尋ねることの一つに、「あなたの守りたいものの究極な何ですか？」。

その守りたいものの究極が人生の選択の要になっている、意識するしないに関わらず。わたしの場合は自分の精神性だ。思考や感情の働き、ものごとに対する心の持ち方、気構え、気力といったもの。

守りたいものがあるから、攻める。攻守ではなく、守攻。といっても、正面から攻めるのは、よほどの時。危うい状況や事態をみて、自分から避ける、離れる。ある意味、自分との闘い。

正面きって攻めるにも、自分との闘いにも、知恵がものをいう。だから多様な学びをしましょう、スキルを磨きましょうとセミナーでは話しているが、すべてをカバーできるものでもない。

そこで、『安らぎ（定）は知恵にそのすわりをゆずる』という教えがいきる。心の安定も自分の知の働かせ方しだい。一番の知恵はそこかもしれない、いや、そこなのでしょう。

2020年8月24日（月） 曇⇒晴

朝一番は曇が多かったが、晴れてきた。今日も暑くなりそう。厳しい残暑は9月上旬まで続くらしい。とにかく早く涼しくなっ  
てほしい。

ー 声のひと風景、ライフログ？ ー

4月末に始めた音声配信の「ひと言ひとり言」、すっかり朝の習慣になり、頻度も毎日になった。

きっかけは、ビデオ会議だった。顔が見えるのはいいけど、個人的には音声だけの良さを感じてのことだった。

もともと自分の考えを自分で自由に話すことは自然にできるタイプ。予め決められたことをその通り話すことの方が不得手。

そうこうしてまもなく4カ月になるが、21日の日経に「音声配信サービスの市場が活気づいている」という大きな記事。

ネットラジオだけでなく、ポッドキャストも多様性が広がってきているようで、当「ひと言ひとり言」もその一つにあたるよう。

ともあれ簡単に音声配信ができるようになって歓迎。SNSにはあまり意味を感じないが、音声配信は<書く>のよい補完になる。

そればかりか、『音の風景』ならぬ「声のひと風景」または声  
でライフログとなるのではなにか。それは後々に意味をもってくる。

2020年8月28日（金） 曇

昨夕かなりの雨だった。夜にはいったん晴れた。今朝はまた雲  
が多い。蝉の鳴き声も気がつけば止んでいた。ほんのわずか、朝  
晩の暑さやわらぐ。8月も残り三日。

— 夏の終わり、常道に帰して —

昨日の朝、外へ出て歩き始めて行き交った風に一瞬、山を感じ  
た。夏の終わりを感じる風だった。おもわず空をみた。

—昨日の夜、ここ最近の出来事を書き留めようとした。あるタ  
イミングでいつもやっていることだが、書き始めたものの、先へ  
進めることができなかった。その気にならなかった。まどろっこ  
しく感じ、やめてしまった。

ああ、こういうことになるか…と気づいた。昨日の「ひと言ひ  
とり言」で話したが、〈話す〉に慣れて、〈書く〉が億劫になり  
始めている。われながら少々驚いた、大げさにいえば、愕然とし  
た。

「五知」、五つの知的活動、読む・書く・覚える・算じる・ま  
とめる。〈話す〉はその先にある。そのことをあらためて思い  
知った感。よくもわるく人間、習慣のいきもの。それはよく承知  
しているつもり、そこで軌道修正。

今こうして書きながら、十分思考を巡らせていることがよくわ  
かる。この頻度、プロセスを疎かにしては、仕事上も自身のアイ  
デンティティー上も、命とり。気をとりなおし、「五知」に努  
め、〈話す〉も試みるとしよう。

昨日一日で何かしら、ある意味〈われにかえた〉。暑さに覚  
醒された脳も、夏の終わりを感じて、常道に帰したのかもしれな  
い。